

## ガンバ大阪と大阪大学とのフレンドシップ協定



夢はバラ色

米谷 泰一\*

Friendship agreement between GAMBA Osaka and Osaka University

Key Words : heatstroke prevention, University friendship agreement, soccer

### ガンバ大阪との大阪大学の連携、フレンドシップ協定締結

大阪府吹田市に位置する大阪万博に作られた万博外周道路の東側に、ガンバ大阪のホームスタジアムである万博記念競技場、北側に大阪大学吹田キャンパス・医学部附属病院が位置しており、距離的に近い関係にあります。

これまでは、近い距離にありましたが、個別の教員との繋がりが中心の、各研究室単位での協力依頼や設備等の有効活用が行われてきました。さる2014年5月20日、大阪大学とガンバ大阪が相互協力により、教育及び研究の振興並びに地域スポーツクラブの発展を目指し、ガンバ大阪野呂社長・平野前大阪大学総長・大阪大学健康スポーツ医学教室中田教授出席のもと、両者の連携・協力関係の基盤となるフレンドシップ協定を締結いたしました。(写真①)ガンバ大阪は、1993年のJリーグ開幕時より加盟し、2005年に初めてJ1リーグ優勝を果たし、08年にはアジアチャンピオンズリーグ(ACL)制覇、14年には国内3冠(J1リーグ、天皇杯、ナビスコカップ)を達成した、日本代表選手も多く輩出するJリーグを代表する強豪クラブです。

具体的な協力事項は、大阪大学の知的資源を活用し、ガンバ大阪の地域スポーツクラブの持つネットワークを生かした、様々なイベントの実施を検討す

ることとなりました。その主な内容は、大阪大学の医学・歯学の専門家による「熱中症対策」、「効果的なトレーニング方法」、「スポーツに必要な健康な歯の維持」などの研修会や講演会の実施。また「ガンバトップチームの選手による阪大病院の病棟への慰問」、「新スタジアムでの通信環境の実証実験」などが予定されました。

### フレンドシップ協定による活動：熱中症対策

5月末に協定締結し、早速、暑い夏に向けてのプログラムとして熱中症対策の講演会実施について話し合いが始まりました。ガンバ大阪の本拠地である万博記念競技場は大阪府の北部にあると言っても、7月から9月は非常に暑く、そのため、過去にも熱中症になった来場観客への対応をしなくてはならない場面が多々あったそうですが、その際、熱中症に対する知識や対応が正しかったのかどうか、今後同様の事例があった場合、的確な対応はどうするべきなのか、など、十分な教育の必要性を痛切に感じておられ、現場からの要望があったようです。そこで、試合関係スタッフへの熱中症に特有な症状や環境、そしてそこに基づいた対策について講義を行うこと、加えて、来場される観客の方にも注意喚起と対処法の紹介を行うこととなりました。

熱中症について、紹介させていただきます。熱中症は頭痛、高い体温になるなどの症状があり、場合によっては意識障害や死に至る可能性がある疾患です。夏場や、暑さに慣れていない梅雨明けごろの温度・湿度が高い日が発症しやすい。のどが乾くと感じる前の水分・塩分の補給や日陰の利用・涼しい服装を心がけることが予防につながります。死に至ることもある病気ですが、致死的な疾患のなかでも予防可能と言われています。個々個人が実践可能となるには、病気の正しい理解(意識障害や死に至る可



\* Yasukazu YONETANI

1973年3月生  
現在、星ヶ丘医療センター  
整形外科 部長 医学博士  
スポーツ整形外科  
TEL : 072-840-2641  
E-mail : yonechan-osk@umin.ac.jp



写真① ガンバ大阪野呂社長様と、平野総長による記念品の交換。  
遠藤選手のサイン入りユニフォーム

能性がある)が最重要です。スポーツ現場、学校、仕事場、家庭で熱中症は発生し、新聞・ニュース番組等でも死亡事故が報道されたり、健康番組で紹介されたり、環境省、厚生労働省、気象庁、日本体育協会、日本救急医学会と、熱中症に関わる政府機関・医療団体によるホームページ等での啓蒙活動も行われ、言葉として浸透しているかと思われます。

しかし、実際に必要となる現場で、対象となる人への講義・教育を行っていることが少ないため、個々個人が体調管理を実践可能なレベルにまで浸透しているかという問いには、不十分であると答えなければならない現状と思います。そこで、

#### ①熱中症について

- ・高温な環境下で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたりして、体の温度調整機能が破綻して、体に熱がたまって生じる障害です。
- ・特に暑さに慣れていない7月が多く発生します。
- ・気分が悪いなどから始まり、意識障害などから死に至る可能性があります。適切な応急処置を行えば救命できますし、それよりも何よりも予防が一番です。

熱中症の危険信号

- 高い体温

- 赤い・熱い・乾いた皮膚(全く汗をかかない、触るととても熱い)
- ズキンズキンとする頭痛
- めまい、吐き気
- 意識の障害(応答が異常である、呼びかけに反応がないなど)

#### ②予防方法

- 日陰を利用して、こまめに休憩をとり、日傘や帽子、涼しい服装をすること、そして、失った水分と塩分をこまめにとることが、予防となります。
- 500mlの水の一つまみの塩の配分(100mlあたりナトリウム40-80mg)がいいとされています。

#### ③周りが熱中症になった場合の応急処置法

- ・意識がなければ、すぐに救急車を要請しましょう。
- ・意識があれば、服を脱がして、氷や、うちわであおいだりして冷やしましょう。
- ・自分で水分が取れなければ医療機関へ搬送、自分で水分が取れても、症状が変わらない場合には医療機関へ連れていきましょう。

これらの内容(写真②)を、ガンバ大阪の担当であった松浦様に提示させていただき、対応することになる会場スタッフ、そして来場される観客を対象に、情報発信することとなりました。



写真② ホームページに掲載していただいた熱中症の予防・対処法

### ガンバ大阪試合でのスタッフ、観客の予防活動、対策

具体的には、7月19日の甲府戦開始前に、競技場内会議室に、会場スタッフ全員を集めた講義(約15分)、観客対象に、試合会場設置のステージで来場された観客に向けたトークイベント(約20分)(写真③)・会場の大型ビジョンでの生放送(5分)・夏季期間のホームゲーム時に放送するCM作成(1分)を行ってまいりました。

外来で病院に来られた患者さんと1対1で向かう受動的説明と異なり、自らが対象となる方々の集まる場所に出向いて、プロ仕様のビデオカメラの前で、プロのアナウンサーさんと、時間を気にしながら能動的に説明することや、リハーサルや撮影していただいたCM映像から、普段行うことのできない、自らの話ぶり・表情・動きを確認させていただく機会をえられたことは、大変貴重でした。放送を見直



写真③ Gステージでの、DJの仙谷さんとのトークイベント

して、思っていたイメージと随分違うところもあり落胆する点もありましたが、客観的に自分を見つめることの大切さを思い出させていただけましたし、改めて多くの視聴者・観客を対象としておられるスポーツ団体の方々・放送業界の方々の凄さ、また一般の方への情報発信・浸透の大切さを再認識させていただきました。スポーツという一つの共通したキーワードから、広がる可能性を感じさせていただいた第一歩に関わらせていただき、大阪大学並びにガンバ大阪の関係者の皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

### 参考資料

熱中症関連サイト

熱中症予防情報サイト(環境庁省)

[www.wbgt.env.go.jp](http://www.wbgt.env.go.jp)

熱中症を防ごう(日本体育協会)

[www.wbgt.env.go.jp](http://www.wbgt.env.go.jp)

熱中症関連情報(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/>

[bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/nettyuu/](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/nettyuu/)

熱中症から身を守るために(気象庁)

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownet/>

[kurashi/netsu.html](http://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownet/kurashi/netsu.html)

熱中症情報(総務省消防庁)

<http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/>

[fieldList9\\_2.html](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html)

熱中症診療ガイドライン2015(日本救急医学会)

<http://www.jaam.jp/html/info/2015/>

[pdf/info-20150413.pdf](http://www.jaam.jp/html/info/2015/pdf/info-20150413.pdf)